会報
栃木県中学校長会

あいさつ

会長　戸田博亘

時々刻々と変転する社会情勢のなかで、総会において決定された本年度の活動方針にしたがいながら運動目標の達成のために、われわれ校長会の活動が有効適切に展開されて、本県教育が一層前進され実績が収められるよう事務局担当の校長各位と苦心を重ねているところであります。

ご存じのように、多年われわれが念願して来たことについて、人材確保法・教頭法などのかたちで着々と実現されて来ていることは喜ばしい限りであります。

しかしながら、現学校の教育課程は知識偏重で人間性を育てることを忘れている、との批判のなかで生涯教育という観点から、小中高の一貫性を考えて教育課程の改革を実現されようとしています。

また、中学校の現場においては、進学希望者が、90%を越えようとしている現状にあって、知識偏重の教育に油をそそぐ実情にあります。時代の要請による週五日制の実現も目前に控え、中学校の教育にも難問が山積しています。お互に研究し実践してこれらに対して賢明に対処しなければならない時でありましょう。

考えて見ると、私たちの目の前にいる生徒は21世紀にその活躍舞台を持つ人々であります。日本の将来を洞察し、世界の未来をも併せ考え、これからの時代に十分活躍の出来る人々を育てなければならないものと信じます。お互に心して頑張ろうではありませんか。

来年度は、関東甲信越地区中学校長会の総会・研究協議会を、わが栃木県において、われわれ県中学校長の手によって設営し運営することになりました。着々その計画を始めたわけでありますが、教育栃木の名にかけて、会員諸賢の一致団結により見事な成果が期待されるよう、絶大なご協力をお願いする次第であります。

関ブロ協議題（案）成る

第27回関東甲信越地区中学校長研究協議会栃木大会を明年にひかえ、各都県から提出された全体会および分科会の協議題を分類整理し、本県各地区から提出された協議題に加えて、数次にわたる検討会を経て、ここに全体会および分科会の協議題の成案を得た。この案は9月末に開かれる関ブロ理事会において審議され、決定することになる。

全体会協議題および分科会協議題は次のとおりであり、本県各地区の校長会はこれを分担して研究を進めることになった。

全体会

「ひとりひとりが豊かに伸びる中学校教育」に視点をおいて、その現状把握と改善試案の策定

―― 将来への展望に立つ中学校教育の使命 ――

（下都賀地区分担）

第1分科会

現行教育課程の問題点とその改善策はいかにあるべきか。　（芳賀地区分担）

第2分科会

4年制中学校の構想にたつ中学校の教育課程はいかにあるべきか。

―― 今後の中学校教育が果たす役割 ――

（足利・足尾地区分担）

第3分科会

学校教育活動の充実を期するための条件整備はいかにあるべきか。　（塩谷地区分担）

第4分科会

中学校教育の役割と家庭教育・社会教育の連携はいかにあるべきか。　（那須地区分担）

第5分科会

現代化をふまえた学校経営はいかにあるべきか。

（上都賀南地区分担）

第6分科会

現代社会における生徒指導はいかにあるべきか。
（那須南地区分担）

第７分科会

ひとりひとりを生かす進路指導と高校入試制度とをめぐる問題の改善をどうすすめたらよいか。
（安蘇・佐野地区分担）

第８分科会

学校５日制の問題点とその対策はいかにあるべきか。
（小山・栃木地区分担）

第９分科会

専門職として期待される教師と、その研修ならびに研修制度はいかにあるべきか。
（上都賀北地区分担）

神奈川大会参加記

第１分科会

「豊かな人間」の育成を目ざした学校教育計画はどうすればよいか。「豊かな人間」について「豊かな知性と感受性を持ち高いモラルによって統一され強い意志によって実践的行動をとれる人」と定義し千葉・神奈川の両県より提案があり、「豊かな人間」の育成に関わりのある問題点について研究協議を重ねました。①定数の不足②教師の問題③教育課程の再改訂教材の精選の必要④学習指導法の改善⑤学校運営の改善⑥教育哲学の問題⑦日本教育と政治経済の関わり合いについて、この協議の結果から伝統的倫理観の変化価値観の多様化、高校、大学入試の熾烈が人間性の喪失に拍車をかけた。このような現実の問題をふまえて長期的展望に立って中学校教育の役割、その内容の改善を図り、「豊かな人間」づくりこそ必要であると考えねばならないと要約されました。この研究協議会に参加し「豊かな人間」を育てるための具体的視点について問題の所在と研究の方向を明らかにすることができました。

（栗山村立日向中学校長　関口善勝）

第４分科会

1.協議題

教職員の勤務時間ならびに教職員定数とその対策

2.提　案

(1)教職員定数の実態とその対策（新潟）

(2)教職員の勤務時間の実態と勤務内容の改善について（横浜）

3.協議内容

「豊かな人間」の育成という目標のもとに教員定数、勤務時間の実態を調査し、教育の現代化、週休二日制、中学四年制につながる問題を明らかにし、その改善策について考察しその足がかりをつかむことが今日的課題であるととらえた。そして現状として、教員定数の不足、授業時数過多、業務繁忙等、学校が託児所的存在になってきており自主性、創造性、思考力を養う教育が十分行なえない状態である。そこで、対策として次のようなことが協議された。

1.週平均時数２４時間を１８～１９時間にする。このために教員定数を１学級２名配当（学・教・施行規則５２条）の完全実施が必要である。

2.教育課程の抜本的改善と、１学級あたり定数45名を漸次減少する方向に努力すべきである。

3.免外教員の解消を図るため、時間講師制を進め補助教員の採用等により勤務内容の改善をはかる必要がある。

4.実態、実状を十分把握し、行政当局への説得力のある要求が必要である。

5.学校へなにもかも持ちこむことを断ち切れないか。学校の本務は何か。全国的に考える必要がある。（今市市立小林中学校長　大橋　正道）

第９分科会

６月２０日午後会場を東京ガス藤沢営業所二階会議室において約百名参加の下に分科会が開かれました。最初に提案者から鹿島臨海工業地帯並びに神奈川県の公害の現況と教育の一端が発表されました。安全・公害に関する痛切な諸問題と地域をあげて公害防止に努力する姿が浮ぼりにされて深い感銘を与えてくれました。公害教育の教育課程中の位置づけについて意見発表があり社会科を中心にやる。社会科の外理科保体道徳特活でやるなどたくさんの意見が発表されました。東京新潟からは一校毎の研究でなしに地区毎に市町村毎に研究組織を確立して取りくんで成果を上げている現状が発表になりました。資料を集め現状を生徒に理解させること又広い立場に立ち「環境教育」の形で考え自然の保護、他人の立場つまり社会全体を考え行動する道徳性の涵養まで考え生涯教育の一環として取り上げるべきであるという結論になりました。

校長としての立場からは職員の共通理解の下に教育課程中の位置づけを考え、学校は勿論地域ぐるみの研修態勢を確立するとともに資料を整備し学校管理に万全を期さなければならないことを痛感いたしました。（日光市立中宮祠中学校長　福田良比古）

地区校長会だより

－那北・那南・塩谷－

那北中学校長会の動向

本地区は、小中学校長会一本の組織をもち、相協力提携し、義務教育の振興を期し、研修を深め、校長としての指導精神確立と、あわせて相互の親睦を図ることを目的として、必要に応じ小中校それぞれの活動を進めている。

来る９月６日７日にわたり、会員一同那須高原に一泊の研修会をもつこととなり、各地区別にその事前研究にいそしんでいるところである。

ちなみに、当日の研究主題は

那須の特色を生かし、創造性に富む豊かな人間性を基盤とした小中学校教育の振興をはかるにはどうしたらよいか。

研究副題（分科会）

・学校教育と社会教育との関連について

・創造性を培う中学校の経営

研修組織は、研修委員長のもと、各市町村選出の小中各１名の研修部長が推進役となっている。

南那須地区校長会の動向

学校統廃合により学校数が一けたに減少し、全員集まっても９人という小人数である。従って諸事家族的なふん囲気の中での話し合いの中に事が運ばれて行き、連絡提携には至極楽だが、来年は栃木関ブロ大会の一分科会を運営するだけの人数を充たせず那北の応援を求めるという駒不足の歎きを見る場合もある。会合は小中学校長合同で持つ場合が多く午後の小中別分科会において中学校独自の話し合いが持たれる。中学校長会長が今年は小中学校長会長を兼ねているので、小中間の連絡提携は緊密である来年の関ブロの担当分科会の提案事項を何とかまとめて、責任を果たしたいと念願しているが、担当テーマが本決定を見ていないので目下足踏み状態である。過日全員で実施した日暮里中学校視察は東京都の学校の実態をつかみ得て多大の収穫があった。来年の北海道大会の参加希望が早くも殺到し、名（迷）案を考慮中である。会長下江川中佐藤喜平、副会長烏山中三尾谷寛、書記会計小川中豊田与一郎

塩谷地区校長会の動向

去る４月、本地区の校長会を開催し、今年度の研修計画と役員改選を行なった。

会　長　塚原公司（氏家中）

副会長　和気政夫（船生中）

昭和４９年度研修計画

豊かな人間性を育てる中学校の教育はいかにあればよいか。

1	6／13	ゆとりのある教育の進め方
2	8／17	感動をさせる教育の進め方
3	10/31	〃　（現職教育や職員指導の面）
4	12／7	人間性を育む学校環境の構成
5	2／14	校長の行なう生徒指導の在り方

となっているが、関ブロ準備にも協力する。

昭49. 専門部役員

◎長　○副

調査部　◎塚原(河)　○高柳(宇)

研修部　◎廻谷(宇)　○増渕(河)○菊地(那)○川島(下)

編集部　◎愛波(上)　○高藤(宇)○金田(河)

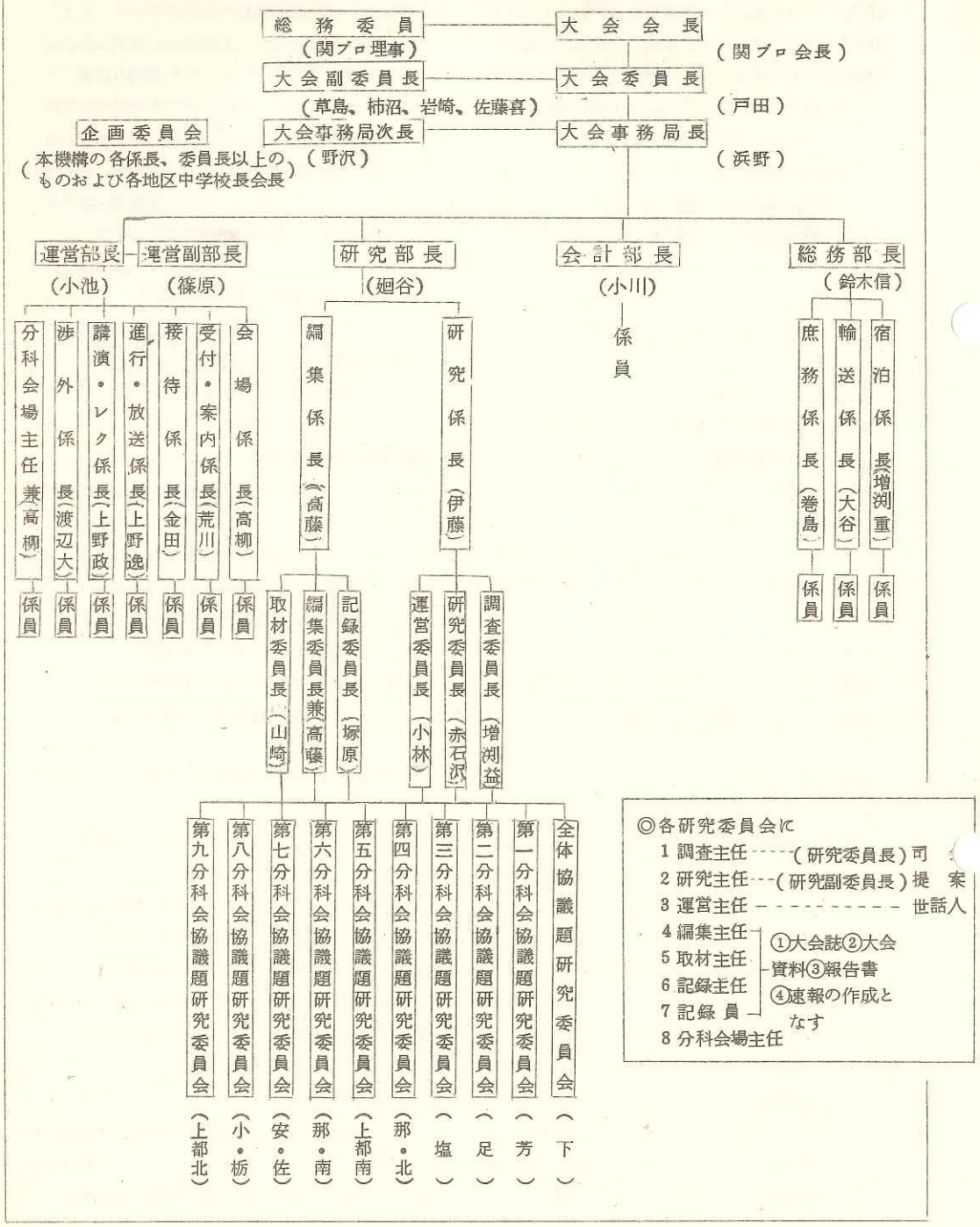
職員対策部　◎鈴木(宇)　○藤掛(安)○佐藤（那北）

進路対策部　◎篠原(宇)　○荒川(河)○柿沼(安)

修学旅行部　◎伊藤(宇)　○大木(栃)○山口（那南）

福利厚生部　◎小池(宇)　○上野(河)

編集記

本年度、編集部として、会報をできるだけ数多く発行するよう努力することになりました。原稿のご依頼に対し心よく寄稿くだされ、感謝に耐えません。

第２７回　関東甲信越中学校長会研究協議会
栃木大会準備委員会（機構図）